第3次安来市総合計画

基本構想（案）

パブリックコメント資料

１．第３次安来市総合計画の策定方針

現行計画である「第２次安来市総合計画」が令和７年度に計画期間の最終年を迎えることから、令和８年度以降を計画期間とする次期総合計画を策定します。

現行計画と同様に、「基本構想」と「基本計画」にて構成し、計画期間は基本構想を１０年間、基本計画を５年間の計画期間とします。

● 基本構想及び基本計画の位置づけ

基本構想	安来市の将来像及びまちづくりの基本姿勢を明らかにするもの。
基本計画	基本構想で定めた安来市の将来像を達成するために必要な施策・事業の基本的な考え方を示すもの。

● 計画期間

年度	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
基本構想	令和8年度～令和17年度（期間：10年間）									
基本計画	令和8年度～令和12年度（前期基本計画：5年間）					令和13年度～令和17年度（後期基本計画：5年間）				

２．総合計画策定の歩み

総合計画策定に向けて、キックオフイベント、市民意識調査、まちづくりワークショップ、まちづくりタウンミーティングなどを開催し、市民の皆さんのご意見を伺うとともに、まちづくりを自分ごととして考えていただくきっかけづくりを行いました。

寄せられたご意見を踏まえながら、安来市総合計画審議会（公共的団体等の代表者や識見を有する者で構成）において、総合計画案の検討を行いました。

年月日		実施内容
令和6年度	9/23	キックオフイベント
	9月～10月	市民意識調査（市民（18歳以上）、高校生、中学生、WEB（誰でも））
	11/22	第１回安来市総合計画審議会
	2/28	第２回安来市総合計画審議会
令和7年度	5/11	まちづくりワークショップ
	6/12	第３回安来市総合計画審議会
	7/22,23,28	まちづくりタウンミーティング
	8/25	第４回安来市総合計画審議会

3．基本構想案

まちづくりワークショップや安来市総合計画審議会での議論を通じ、安来市が大切にしてきたものや安来市に眠る価値を確認し、安来市の特徴をあらわすキーワードを「ワザ」と整理しました。

（「ワザ」の説明）

安来市を代表するモノ・コトを見ていくと、そこには常に“ワザ”が隠されています。和鉄を造った「たたら」の時代から続く鍛冶技術、さらに進化を続けた製鉄技術は、このまちに安定した豊かさを与え続けてきました。

そして、世界から注目を集め続ける足立美術館の日本庭園を支える庭師の“ワザ”、このまちの気さくな人柄から生まれ、言葉の伝わらない海外の人すら笑顔にさせるどじょうすく踊りに見る芸の“ワザ”など。

安来は、ここの風土から生まれたものをただ漫然と守るだけでなく、工夫を凝らし、変えるべきものと守るものを明確に捉えながら、今へと受け継いできました。

安来にワザあり！これらのワザこそがこのまちならではの豊かさの源泉であり、文化であることに私たちは改めて気づくべきではないかと考えました。

（「ワザ」と読む漢字）

- **「工」**：制作する。優れた技。たくみ。職人。物を作る人。
- **「伎」**：腕前。巧み。芸者。わざおぎ。芸人。俳優。（舞踊や歌舞伎など芸能の分野）
- **「技」**：細工をする手並み。優れた技術を持つ腕前。（美術や工芸の分野）
- **「芸（藝）」**：修練して身に付けた技。技能。学問。きわまり。果て。限度。
- **「術」**：専門的な知識。技芸。技能。技を用いた行動。
- **「業」**：成し遂げた行い。わざ。技術。技能。
- **「幹」**：働き。腕前。

３．基本構想案（続き）

安来市の将来像（10年後の目指す姿）について、次のとおり定めます。

将来像「ワザを磨き、安らぎをつむぎ、シンカするまち」

日本全国へ、さらに世界へ誇るワザのまち安来一。

将来像に掲げたワザは、ここまでにあげた鍛え上げられた能力や、特別な誰かの仕事の話だけではなく、だれもが持っている得意技も含めたものです。

料理が好きな人は、地域の食の魅力を伝える力に。

絵を描くのが好きな人は、まちの風景や人々の営みを彩る表現者に。

人と話すのが好きな人は、地域のつながりを育む担い手に。

あなたの「好き」や「得意」なことに「まちへの思い」が加わったとき、それがワザとなり、安来にとってのタカラモノになるのだと私たちは考えます。

「吾が御心は安平（やす）けくなりぬ」

スサノオノミコトがここを訪れた際に述べられたこの言葉から、安来と呼ばれるようになったこのまちは、遥かに時代を超えた現代でも人の心を安らがせる豊かな自然と穏やかな暮らしが続いています。
この安平（やす）けき安来を次世代につなぐために、安来のタカラモノであるワザをみなさんとともに磨き、“ALL YASUGI（オールヤスギ）”でシンカを続けてまいります。

３．基本構想案（続き）

将来像を実現するためのまちづくりの基本姿勢について、ワークショップなどの意見から得られた３つのコンセプトである、「市民の誇り・愛着」、「つながり、共生、暮らし」、「変化への対応、チャレンジ」を基調として、次のとおり定めます。

まちづくりの基本姿勢

これからの10年のまちづくりを行うにあたって、３つのシンカ〈真価〉〈深化〉〈進化〉を考えることを基本姿勢として掲げます。

“真価”　－真の価値を問う－

これまであたりまえだったモノやコトに対して、何がこれからも必要で、何が不必要なのか、何を変えて、何を変えないのか、真の価値、真の課題とは何かを常に考えます。

“深化”　－つながりを深める－

これまでの枠組みを越えた関係者とつながることで、まちづくりを深化させます。

ヨコ軸：行政・企業・学校・NPOや地域住民などヨコの連携を深める

タテ軸：知識・理解・関係性を深める

“進化”　－チャレンジを続ける－

次世代がこのまちで安心して暮らし続けられるように、変化の激しい社会に柔軟に対応していけるように、チャレンジを続けます。

市民の新たな挑戦を応援し、夢を実現できる安来市を目指します。

4．計画書の作成方針

次期総合計画の策定に当たっては、以下の視点を大切にします。

- 市民にとって分かりやすく、手に取り、読みたくなる内容・表現
- 市民が自分ごととしてまちの将来を考えたり、行動するきっかけとなるもの
- 安来市のこれからを担う子ども・若者にきっかけを与えるもの

計画書（冊子）の作成に当たって、安来市の「ワザ」や「シンカ」を象徴するような写真や、市民参加（ワーク）のページを掲載するなど、デザインや表現を工夫します。

● 計画書（冊子）のページ構成